

令和3年度中野市長定例記者会見（2月） 顛末

- 期 日 令和4年2月22日（火）
- 時 間 午前11時～11時15分
- 会 場 市役所5階 52・53号会議室
- 出席社 5社（テレビ北信、新建新聞、信濃毎日新聞、北信ローカル、読売新聞）

<質疑応答>

○令和4年度 予算案の概要について

【読売新聞】

今回の当初予算案で市長はすべてに思いを込めていると思うが、一番重視している事業内容や全体を通じてどのような予算にしたかったか。

【市長】

市民会館のリノベーションなど、公約に掲げる住みやすい中野市ふるさとにするということで、子育てに重点を置いています。廃校を活用した地域の交流施設または5年10年というスパンで見たときに、この地域で交流人口が増えて人が未来に向かって育っていく、そういう施策に対して力をいれています。ペーパーレスも注目されていますので、DXも重要だと思っています。

一番のポイントは子育て世帯のフォローです。令和元年のお子さんの生まれた数が266人、令和2年には262人、そして令和3年は251人ということで、コロナ禍でありますので、250人を切ってしまうのではないかと危惧しておりました。その前は300人台の時代が続いていましたが、少子化が進んでいますので、市でできることを少しでも予算付けすることによって、出産の祝い金から始まり、お子さん方が中野市に住み続けて世代が続いていくような施策になればという思いです。

【信濃毎日新聞】

予算書の概要15ページの主要事業の中で、産業関係では2番3番あたりが

該当するかと思うが、農業振興課の管轄のものが多いと感じた。産業関係では農業に力点を入れていくと意図されたものか。

【市長】

中野市ではキノコ産業も含め、皆さんがご存じの通りシャインマスカットの販売単価が伸びております。中野市の基幹産業である農業の部分で産地のパワーアップということで農業関係にも力点を置いています。

18 ページにその関連についてスマート農業導入補助事業、防犯カメラの導入事業、多様なマーケティング推進事業などあります。

【信濃毎日新聞】

市債について、前年度比約3割増の39億3510万円を見込むということであるが、市債は借金にあたり、市債が増えているということに対して、どう思われているか。過疎対策事業費が増えたということも要因だと思うが、それ以上に市債が伸びている。要因は過疎債が増えたこと以外もあるかと思うが、その点も含めて説明をお願いしたい。

【財政課長】

まず起債の増で10億円ほど借りることとしています。大きな理由が永田小学校の整備です。交付税全体の額自体は増えていますが、永田小学校の整備では過疎対策事業債というものを活用し、充当率が100%です。これは借りられる事業費が100%で、交付税の還元率が70%ととても手厚い起債です。一概に起債の額だけで判断は難しい面もありますが、財政を運営していく上では借り入れはこれからもなるべく抑えるようにしたいと考えています。その他の起債の内容ですが、農業の土地改良の関係や、道路整備の関係、都市計画道路の立ヶ花東山線、これは県の事業ですが、市も地元ということで地元負担金として6,000万くらい負担します。そういった事業の積み重ねがこの伸びの額となっています。もしこれ以上細かい数値がということであれば、会見終了後お問い合わせください。

【信濃毎日新聞】

市長のお考えを伺いたいのですが、財調基金が6億くらい減っているということで、昨年も6億くらい取り崩されたと思うんですが、基金が減っているということについて、市長の見解をお伺いできればと思います。

【財政課長】

財政調整基金の考え方ですが、標準財政規模というものがございまして、中野市の場合約125億ほどです。この1割程度がよいのではないかとされています。そうすると12~3億あたりが中野市の場合、適正であります。予算を組んだ段階である程度は減りますが、9月の決算時においてその金額があるかどうかで財政を見ています。今のところはこの金額ですが、この金額をなんとか維持できるものと思っています。財政調整基金自体が災害や急激な景気後退などの危機に際して活用するもので、まさに先の台風やコロナの対応、この度の大雪の関係に対して基金を活用しています。基金がある程度減ってしまっているというのは仕方ないと考えておりますが、行革やふるさと納税の関係など歳入にも力を入れ、できるだけ基金は積んでいきたいと考えています。

【信濃毎日新聞】

コロナ関連の施策について伺いたい。DXの推進は行革の意味とコロナ対策の意味もあると思うが、どちらかというところ感染予防に重点をおいている事業が多いと感じた。プレミアム商品券など経済対策で何かコロナ対策の目玉はあるか。

【財政課長】

20ページと21ページの記載の内容の区別は事務レベルで分けさせていただきました。DXの推進の色が濃いものの中には、電子決済の関係、テレワークの関係などコロナの交付金を活用して事業を進めていきたいと思っています。

【総務部長】

事業者支援とすれば、21ページのおでかけリフレッシュ事業に500万円の事業費、介護保険サービス等事業所支援事業ということで1,000万円があり

ます。それぞれ苦慮されている皆さんに市として補助させていただいているものです。

【新建新聞】

19 ページの通学路安全対策事業について、小学校の通学路だと思うが、市内7つの小学校のうち、どこの小学校か、どんな対策工事があるか。

【財政課長】

この 9,316 万には工事費だけでなく、用地測量や用地の補填も含んでいます。工事の内容はペイント対応や歩道の設置もございしますが、細かな内容は道路河川課から説明いたします。

○令和4年3月中野市議会定例会について

【信濃毎日新聞】

補正予算に計上した主なものを1、2点教えてほしい。

【財政課長】

細かな点は後ほどご説明させていただきます。

○ 3～6に関する質問について

【北信ローカル】

買い物弱者支援事業の事業者、(株)メイプルというのはどちらのどういった企業か。

【健康福祉部長】

(株)メイプルは小布施の新生病院の中のひとつの事業者であり、そこで事業を展開しています。

【北信ローカル】

ここに記載されているとおり日用品、食品を新生病院の中で販売されている

ということか。

【健康福祉部長】

新生病院の中の売店を運営されています。

(終了) 11:40